

天文同好會々報

○岡山での總會

来る四月十日と十一日には、いよいよ岡山に於いて本會の定期總會が開かれる。決定した**プログラム**は、

四月十日(土曜)

午後一時から四時まで——天文講習會

午後七時——大講演會及び天體觀測會

四月十一日(日曜)

午前八時から十一時まで——講習會の續き

午前十一時——同好會評議員會

午後一時——同好會定期總會

午後四時——記念晚餐會

午後八時——學術講演會及び天體觀測會

又、此日は終日天文展覽會がある。

場所は、晚餐會の外は、皆、岡山市立商業學校である。

上記の中で、

天文講習會は、之れが岡山での第四回講習會であつて、今回は下の主題である。

題「太陽とは何ぞや」 山本理學博士

時間は十日の午後と十一日の午前とにわたつて全部六時間である。昨今、太陽の黒點活動が増大し、世人の注意を惹いてゐる問題であるから、此の講習會は確かに盛大なものであらう。太陽に關する纏つた知識を得るには絶好の好機である。

會費金貳圓(但し同好會員は金壹圓)、學生は半額。四月五日までに岡山市門田二十の水野千里氏あて申込まれたし。

此の講習の綱目は本誌第 213 頁を見られよ

四月十日夜の講演會には

〔科學の本領〕 京大助教授荒木理學士

〔日月の運動〕 京大助教授上田理學士

此の會の後、空が晴れておれば、月外で天體の實地觀測を行ひ、山本、上田、荒木、中村、宮原、水野、奥田の諸氏の指導がある筈。月が無いので、土星が最も美しく見えるであらう。

評議員會は、同好會に評議員制度が出来て、初めての會合であるが、會の經營や將來の發展策について諸種の事が議せられ、又、

其の日の午後の總會に提出される諸議案の審議が行はれる筈。

定期總會には例によつて過去一年間の

1. 會務報告

2. 會計報告

があり、尙

3. 規則の改正

4. 新事業の計畫案

5. 諸種の決議案

等が議せられると共に、最後に

6. 幹部の改選

もあるわけである。此の總會席上では、一般の會員たちから、會のため、有らゆる希望や注文や忠告などが望ましいことであるし、又、各地に設定されるべき天文臺の件も何等かの決定がなされるであらう。

記念晚餐會は、聞く所によれば、遠來の同好珍客に對する岡山支部からの招待である。

四月十一日夜の學術講演會には

〔天文望遠鏡とその製作法〕 中村要氏

〔人生哲學としての天文学〕 山本博士

があり、尙、其の夜も、晴夜ならば、觀測會が催されるであらう。

天文展覽會は各地より集められた天文圖書や模型の陳列が主であるが、若干の器械なども搬入されるであらうから、今日の天文學界の状況を表はす有益なものとなるだらう

尙、此の機會に、岡山縣下としては

四月八日(木曜)午後二時から、**津山支部**の幹

旋で、山本博士の天文講演會「天文の興味」

が津山高等女學校講堂に於いて催され、又、

其の夜午後七時から十時まで、同博士を中心として第一回津山**天文講習會**「應用天文学」

が同地圖書館内で開かれる筈。會費や其の

他詳細の事は岡山縣吉田郡津山町大字山下の森本慶三氏に問合はされたい。又、

四月九日(金曜)午後二時から、岡山縣倉敷町小學校旭町校舎に於いて、山本博士の講演會(題は「天文学の今昔」)がある筈。

遠來の同好會員たちのために、岡山市内に適當な旅館が指定される筈である。希望者は岡山市門田二十の水野幹事に申込まれたし。

第四回岡山
天文講習會 「太陽とは何ぞや」

山本理學博士述

要 綱

1. モデル天體としての太陽

イ. 其の運行

晝夜と時刻

季節と曆法

ロ. 其の距離と大きさ

太陽の距離と其の測定法

太陽の大きさと其の論争史

ハ. 日食と月蝕

ニ. 其の光力と熱度

日光の強さ

高熱と其れに關する諸問題

2. 物理學教室としての太陽球

イ. 太陽の化學分析

ロ. 太陽の物理構造

太陽の縱斷面

物質と其の運動

超實驗室的構造

ハ. 光球の實相

ニ. 彩球と紅焰

ホ. コロナの神祕相

ヘ. 太陽黒點の研究

其の數と形相

其の週期變動

其の運動と太陽自轉問題

其の化學

其の物理

黒點製造法

3. 人生と關係する太陽の諸相

イ. 神としての太陽

ロ. 方便としての太陽

ハ. 大親としての太陽

ニ. 支配者としての太陽

ホ. 教師としての太陽

ヘ. 「太陽を射る者」の設備

以 上

○東京支部より

當地は毎土曜缺かさず會合をして居ります
會員募集についてもやつきとなつて居ります
が、多忙のため詳細御報告を致さずに居ります。
昨一日より東京日々新聞主催のコードモ博
覽會内に四臺の望遠鏡を持ち出し、太陽觀測
を公開し、日々新聞の好意により、印刷して
貰つたビラを三萬枚、向ふ十四日間に配布す
る考へですから、多數の同趣味者を發見し、
會員とすることが出来ようかと思つて居りま
す。

三月には婦人見學團(東日の)の天體觀測會
を、一夕、新聞社の樓上で催したいと思つて
居ります。四月か五月には御茶の水教育博物
館に於いて天文展覽會を催ふしては、會員
中にて話し合つて居ります。今少し具體的に
成りましたらば御指圖を願ふことに致します
(二月二日、五藤)

○横浜より

(前略)去る一月二十三日夕の當地の天文の會
は實に意外なる盛會にて候ひし由にて、青年
會からも、井上氏からも、私へ喜んで下され
私も本統に何所へ御禮を申上げて好いのか分
りませんでした。(後略)一支部の一會員より

○岡山支部一月通信

1. 天界研究會 九日宮原幹事宅で開催

2. 天體觀測會

a. 三日徳吉町總會の際太陽の黒點を觀測
した。

b. 十四日支部で日食を觀測。

c. 二十三日午後六時三十分から、姫路師
範學校々庭で、天體觀測會が開催され
た。これは同地方の熱心の會員大西は
つゝ、會員岡田幸雄兩氏の斡旋によつ
て、同校の四吋望遠鏡を中心に催され
たもので、姫路で最初の試みであつた
水野幹事は三吋望遠鏡を持參して、
これを應援した。

d. 二十四日石倉少佐宅で、黒點の觀測を
した。

3. 例會 二十四日午後七時から、岡山市立
商業學校で、例會を催し水野幹事の講演
があつたのち、若干の天體を觀測した。

○滿洲支部

大正十五年一月二十日關東州水師營公學堂に於て輕便ハセンチ屈折望遠鏡を以つて太陽黑點の觀察を行ひ四時頃終り、食事中、留守宅より妻病氣の電話來る。されど午後六時55分の列車より外に歸宅の道なし。故に此の間の時を利用して金星を觀覽せしむ。

歸着の時、妻は既に釋妙貞となれり。聞く臨終は午後五時半なりしと。(中略)妻の往生を記念するため斯道の宣傳に生きんと思ひ立ちた。

一月四日五日の兩日に亘り8センチ鏡を以て安奉線大溪湖小學校に於いて太陽黑點及金星の一般觀覽を許し頗る大盛會に候ひき

○札幌に於ける黃道光觀測。

①一月五日午後六時前後美しい黃道光を認む觀測者福島久雄。

②一月十四日今日は日蝕であるがめぐまされざる北海道に於て西天を眺めて居りました。其れに近來にない好い天氣なものですから日は次第に暮れて行きました。次で私の眼に映じたのは美しい黃道光でした。觀測者米田勝彦、福島久雄(別々に觀測)

③二月一日毎日の様に降りつゞいて札幌は近年にない大雪となつた。此の日に限つて晴れたが氣溫は零下二十度に近かつた。豫期した如く美しい黃道光が出て居つた。ふるへながらマントにくるまりまづいスケッチをした。底部の幅は十五度位、高さは四十五度位あつた。底部の中央に魚座の圓い星群がいつもと同じ様にきらつて居つた。觀測時間五時半より七時半頃迄、觀測者、米田勝彦。

○友を求む

僕は天文同好の士を求むる事切なる者であります。

若し當地の方にして同好の士を求めて本部に問合せありし場合は僕を漏れなく其の方に知らせてやつて下さい。

十六日の黄昏時シリウス輝やく

南天を眺めつゝ

茨城縣那珂郡中野村柳澤 助川武夫拜

天文同好會規則(大正十四年十月)

第一條 此ノ會ヲ天文同好會ト云フ

第二條 此ノ會ハ天文學ノ了解ヲ進メ兼ネテ同好者相互ノ親睦ヲ増スノガ目的デアル

第三條 事務所ヲ京都市吉田町京都大學天文臺内ニ置ク、又會員密集ノ地ニハ支部ヲ置ク事ガアル

第四條 此ノ會ハ其ノ目的ヲ達スル爲メ次ノ事業ヲ行フ

一、講演(例會毎月一回、總會年一回、其他臨時會)

二、講習(各地ヲ臨時ニ開ク)

三、雜誌圖書ノ出版(雜誌ハ月一回會員ニハ無代配布、圖書ハ隨時)

四、實地觀測(第一部啓發的、甲觀望、乙見學、第二部研究的、甲流星、乙變光星、丙彗星)

第五條 此ノ會ノ目的ニ賛同スル者ハ誰デモ會員ニナレル

但シ會費トシテ毎月金五拾錢ノ割テ、成ルベク半年分又ハ其ノ倍數ヅツテ前金ヲ納入スルコト

申込ノ際ハ住所職業生年ヲ記入セラレタイ

第六條 本會ノ經費ヲ支持スル趣意デ毎年金貳拾圓以上ヲ齎出スル者ヲ維持會員トスル

第七條 一時金壹百圓以上ヲ寄附スル者及ビ會員五十名以上ヲ紹介シタル者及總會ニテ特ニ推舉セラレタ者ヲ名譽會員トスル

第八條 此ノ會ノ幹部ハ次ノ通り

幹事 三名 會計 一名

此ノ幹部ハ總會デ選舉セラレル者デ任期ハ一ケ年

第九條 此ノ會ニ評議員若干名ヲ置キ、幹部ノ相談相手トナル

第十條 幹部ハ會員ノ中カラ次ノ係リヲ指名推舉スル

講演係一名、編輯係三名、觀測係一名

寫眞係一名

天文同好會大正十四年度幹部

幹事 山本一清

同 上田 穰

同 荒木俊馬

會計 竹内忠治